銀座水族館（七つの海の魚および水産切手）

—34—

三崎出張所　神　原　　勇

ニ　ジ　マ　ス
分類　ニシン目　サケ科
学名　*Salmo gairdnerii iridens*
英名　Rainbow trout

ニジマスは体長15㎝以上になると雄雌共に体側中央の側線部に，幅の広い赤紫色の縦帯が見られるが，産卵期の雄は特に顕著である。この赤紫色の縦帯と，腹面をのぞく体全体に小さな黒点があり，特に尾鰭の黒点は他のサケ科のものと分類識別するときに大いに役立つ。ニジマスは「虹鱒」で，ベニマス「紅鱒」と漢字の類似から混同され易いので注意が肝要である。

ニジマスは元々北アメリカ・カリフォルニア州のロッキー山系の渓谷に陸封されたRainbow troutで，日本には明治10年頃から種卵が輸入されて日本全土に広まり，各地で養殖が盛んに行われている。北海道へは比較的おそく大正6年日光の中禅寺湖から移殖された。ヤマメもイワナも同じように渓流に生息するサケ科の魚で，在来のマスと呼ばれ，これに対しニジマスは舶来のマスと呼ぶ事がある。

ニジマスの養殖は水温15℃前後の清澄なる清水が必要であるため，日本有数の養魚場は長野県の穂高地方，静岡県の富士宮市，滋賀県の醒が井等山麓地方が有名である。ここでは川の水を取り入れている養魚場もあるが，ほぼ水温の一定している豊富なる地下水を汲みあげているところが多い。ニジマスは他の魚類に比較して酸素の要求量が非常に高く，止水即ち単なる池での養殖では斃死することが多いので，池に高低の差をつけて水を落下させ曝気（バッキ）により少しでも空気中の酸素を溶解させ，酸素を充分に与えるのみならず，水が流れることにより魚が運動し，病原菌の予防，健康に有利なように設計されている。

ニジマスの採卵，孵化は人工的に行われる。12月の寒気厳しいころ雌の腹をおさえるとオレンジ色の卵が採卵盆の中へほとばしるとき，時をわかたず雄の精液をふりかけ羽毛で軽くかきまぜ水へ移す。約30日位で孵化し稚魚は体側に8～12ケの小判形のパール・マーク（Parr mark）が見られるが，体長15㎝位になると消失しニジマスの大きな特徴となっている赤紫色の縦帯が見られるようになる。

ウナギやコイ等の温水性の淡水魚と異り，ニジマスは冷水性で冬眠とよばれる期間がなく，冬の間でも盛んに餌をとり，どんどん生長するため，孵化して1年位で20㎝，2年すると40㎝，1㎏の体重になるほど成長も早い。大きなものでは体長75㎝，体重8㎏のものが見られる。

南米ボリビアのチチカカ湖に移殖されたニジマスは100㎝を超え，雄の鼻先はサケと同様に曲っているものが見られるという。

以前はイワシやサバ等をミンチにかけ小麦粉や米ぬかを混ぜ合せた自家製の飼料を使っていたが，現在ではスケソオダラ等を粉末にしたフィシュミールに澱粉や各種の栄養剤を混入した配合飼料が用いられている。ビタミンB_1・B_2が不足すると成長停止，神経過敏になりやすく，ビタミンAが不足すると病原菌に抵抗がなくなり，目玉がとび出してくる。その他ビタミンD，E，パントテン酸等が必要で人間並以上である。

観光地ではアユの代用品として姿焼きのままメニューに加えられ，町内の魚屋，スーパーマーケットにも大分出廻り一般に馴じみ深くなってさたので小型の方が（1尾 100g程度）評価されがちであるが，活魚が手に入るところでは1㎏以上のものをアライや土佐作りにして利用されるが，たしかに脂ものり且又淡白で美味である。

ニジマス

分類：ニシン目　サケ科
学名：Salmo gairdnerii iridens
英名：Rainbow trout

アメリカガ原産地デ最モ養殖ニ適シタマスデ最適水温ハ9～18℃デ流水ノ中デ飼育シタ場合ハ更ニ高水温デモ可能デアル。三年間デ1.2～2.0kgト成長モ早クサケト異リ数年間連続シテ採卵出来ル強味モアル。移殖ハ発眼卵ノ時期ニ行フノガ大量ノ移殖輸送ガ出来ル、稚魚ニハ小判形ノパーマーク（parr mark）トヨバレル暗色斑紋ガアルガ体長15cmM以上ニナルト消滅スル、コノ時期ニナルト体色ノ大キナ特徴トナル体側面ニ赤紫色ノ美シイ縦縞ガ表レル。地色ハ黄色味ヲ帯ビタ緑青色デ背鰭、尾鰭、胸鰭ヲ含メタ体全体ニ輪郭ノハッキリシタ小サナ黒点ガ多ク見ラレル、同属ノブラウントラウト（Salmo trutta）ニハコノホカ小サナ赤色点ガ見ラレル。ニジマスガ陸封型デアルニヒヽシテ降海型ノニジマスニ頭部ガ鋼鉄色ヲシタスチールヘッドトラウト（Salmo gairdnerii gairdnerii）ガアル。ニジマスハ近年大衆魚トシテ魚屋ノ店頭ニモ並ブヨウニナッテキタ。

アルゼンチン　-1974-

ニュージランド　-1960-

北朝鮮　-1962-

マラウイ　-1974-

アメリカ　-1971-

レバノン　-1968-